

育心

発行責任者：秦野市教育研究所長 佐藤 直樹

発行日：平成28年9月30日

《秦野市教育研究所》

住所：秦野市桜町1-3-2

電話：0463-86-9102

e-mail: k-kenkyu@city.hadano.kanagawa.jp

URL: [http://www.city.hadano.kanagawa.jp/k-](http://www.city.hadano.kanagawa.jp/k-kenkyu/kenkyu.html)

[kenkyu/kenkyu.html](http://www.city.hadano.kanagawa.jp/k-kenkyu/kenkyu.html)

豊かな土壌（家庭）とたゆまない環境（地域・園）づくりが健やかな心を育みます

H28年度がスタートしてから、半年が過ぎようとしています。様々な教育活動の中で、一度立ち止まって振り返りをしたいところですが、教員の多忙化が叫ばれる中、そのような時間もなかなか持てないのが現実です。そんな忙しい毎日かと思いますが、この「育心」を手にとって一息ついていただけるとありがたいです。

わたしたち教育研究所のメンバーも、この4月より若干の入れ替わりがありました。今回は、わたしたちの紹介も兼ねて研究所のこれまでの事業内容をお知らせいたします。



伝える力

教育研究所長 佐藤 直樹

4月より教育研究所長となりました佐藤直樹と申します。まさかの出来事で戸惑うばかりですが、「自分のできることは何か」を常に自問自答しながら、皆様のお力になれるよう、誠実に職務にあたっていきたくと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

さて、今年の夏休みはいつになく短かった私ですが、86歳でマスターズ陸上大会に出場する父の応援に向かう東北新幹線の中で、池上彰さんの「伝える力」という本を読みました。「『話す』『書く』『聞く』能力が仕事を変える！」というコピーに惹かれて、思わず買ってしまったのですが、「面白いことや感動したことは誰かに伝えたい。それは大人でも子どもでも同じこと。コミュニケーションの基本は変わりません。相手に伝わったと感ずることが最大の喜びのはず・・・」とその本は始まっていきました。

以前私は教育指導課に所属していたため、教育研究所の業務は初めて見聞きする内容も多いのですが、意外にも面白いとハマっています。今年の夏も教育研究所では、多くの研修会・発表会を行ってきました。担当する指導主事の皆さんには、立案の段階で二つのお願いをしました。一つ目は聴くだけのマネジメントでなく、アクティブラーニングの手法を取り入れてほしいというものです。二つ目は、悉皆（各校必ず1名）でなくても参加率が確保できるようなコンテンツを目指してほしいということでした。関野・市川・安藤指導主事の工夫で、アンケートを見る限り良い兆候が出ているように自己評価していますが、参加された皆さんいかがだったでしょうか？ 私たち教師の最大のスキルは「伝える力」だと思います。そして教育研究所は、そのスキルとコンテンツのクオリティーを高めるために何ができるのか？それを追い求めていきたいと考えております。

さて「育心」担当の「読む人少ないですよ〜」のつぶやきに挑戦して一工夫したいと思います。SNSといきたいところですが立場もございますので、お読みになられた方は、下のコメント欄を拡大コピーして切り取り、意見・要望・感想をお寄せください。提出はFAX・通送・手渡し等何でもありです。・・・無謀か？

典型的なB型のさそり座！ゴルフ始めました！



私の提言！

教育研究所長 行き

募集テーマ1

私の提言！秦野の教育はこうありたい・・・

募集テーマ2

わが校PR うちの学校のここがスゴイ！

わが校PR

SGEから野鳥まで 魅力あふれる秦野の教育

第34回 教育研究発表会

教育研究所では、平成28年8月24日（水）秦野市文化会館小ホールにおいて「第34回教育研究発表会」を開催しました。今回の研究発表会では、調査研究の部より「『秦野ふるさとめぐり』の改訂について」、自主研究の部より「元気な体と生活リズムをつくろう」と、「構成的グループエンカウンター（SGE）を取り入れた学年集会の継続的な実践について」、午後には「渋沢の子どもを育む懇談会の取組」に「新訂版 秦野の野鳥」の紹介と、幼小中の実践のみならず、郷土愛につながるもの、わたしたちが見過ごしがちな自然に関するものまで、もりだくさんの内容でした。発表の形式を工夫し、参加者自ら秦野検定にチャレンジしていただいたり、発表の内容についてコメンテーターが解説したりと、発表者たちの熱意が伝わるような会となりました。

これからも、それぞれの園・学校で実践できるような、またみなさんの心の肥やしとなるような様々な研究成果を紹介できるよう、工夫していきたいと考えております。発表者の方、参加者のみなさまのご協力に厚くお礼申し上げます。



工夫を凝らした発表が続く

発表会を参観して・・・（アンケートより）

- ・幼稚園で取り組まれている発表を聞いて、運動の経験に差があるのは、幼も小も同じだと思った。小学校でも体育の授業の始めに用いられそうなので教えてほしい！
- ・どの発表も真摯に取り組まれた報告なので興味深く聞くことができ、2学期に向けためて力や意欲の湧く発表でした。



〇型天秤座の関野貴之です。
スキー部でクロスカントリーをやっていました。

毛筆ブーム再来！

教員研修の一環として、7月28日（木）に幼小中一貫国語教育研修講座が行われました。はだのこども館の多目的ホールを会場としましたが、市外から申込みが殺到し、会場に入れない人が出てきたらどうしようとドキドキするほどの盛況ぶりでした。それもそのはず、講師は横浜国立大学教育人間科学部教授の青山浩之先生で、青山先生を信奉している他市町の先生からも多数申込みがあり、人気ぶりがうかがえました。「発達段階に応じた文字の学習～毛筆指導を通して～」と冠したこの研修では、書写と書道の違いから、筆の持ち方や子どもの「気づき」を促す指導方法まで、きめ細やかで丁寧な説明とさわやかな風貌が、研修に来られた先生たちを惹きつけていました。

今、ひそかに書写や毛筆が見直されています。広島県熊野町では、小学校1年生から書写の授業を行っており、児童の集中力が増し、他の授業にもいい影響が出ているとの報告があります。この秋、青山先生に倣って「美文字」先生を目指してみませんか？



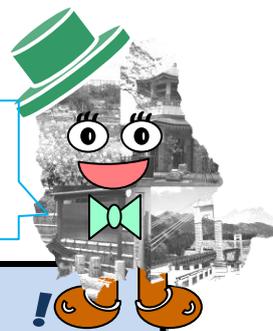
目からウロコの講義



先生達も一生懸命

めざせ！秦野マイスター

Q 秦野市は県内の19市中何番目の面積でしょう？
(ふるさと秦野検定1級)



総勢136名「秦野検定」に挑戦！！

夏休みに入って間もない猛暑の中、本町小学校と鶴巻小学校のご協力を得て、「ふるさと秦野検定」が行われました。チャレンジしてくれた小中学生は、3級が46名、2級が53名、1級が37名の計136名です。

大人もすぐには答えられないような問題に一生懸命取り組んでいた姿が印象的でした。なお、合格者は3級が46名、2級が40名、1級が17名でした。



雨の中の
金剛寺

「はだのっ子アワード～体験部門～」の一貫として東公民館主催で行われた「体験マップめぐり 東地区」に、応募された5家族と共に参加しました。雨が降っていましたが、案内役の大津さんに従い、豊臣秀吉が北条攻めをする際、小田原城に向かった古道（今はもちろん舗装されていますが）を歩きました。

途中、金剛寺の住職さんのお計らいで、本堂まで入ることができました。また、源実朝ゆかりのこの地におけるお寺の役割や、仏教についてとても分かりやすく説明してくれました。印象に残っているのは、「ヤビツ峠」の名の由来です。歩兵たちが峠で自分の矢をお櫃に入れて一息ついたところからきたそうです。また、違う地区もめぐってみたいと思いました。



この「ふるさと秦野検定」は、研究所が運営している「はだのっ子アワード」事業の3つの部門のうちの1つです。この「ふるさと秦野検定」以外には、「文芸部門」「体験活動部門」があり、秦野の自然、風土、産業、伝統、文化などを生かした学習や体験を通して、秦野を愛する子どもたちを育むことをねらいとしています。

各家庭でコミュニケーションを図るきっかけとしてのこの検定を活用してくれているところもありますが、ちょっとした工夫で学校の中でも活用できます。前年度の検定問題や体験マップについては、研究所でもらえます。

みなさんも、ぜひチャレンジしてみてください！



B型水瓶座の安藤美千代です。ソフトボール続けてます。

経験したことのない大雨

あなたならどうする？ 防災教育

防災教育の一環として、気象庁より講師を招いて、5月20日（金）に防災教育研修講座を開催しました。近年の、予想不能の災害の数々・・・。「子どもたちの命を守るために、知っておくべきこと」、「日頃の指導はどうすれば」などワークショップ形式で学んでいきました。参加者からは「子どもたちの命を守っていくためにも、地域の特性を知る必要があると思った」など、やはり「秦野検定」同様自分の住む町を知ることはとても大事だと再確認されました。



B型いて座の峰尾節子です。エアロビ燃えてます！



授業が変わる!! 子どもたちが変わる!!

秦野の ICT事情

教育委員会では今夏、上小学校に40台、教育研究所に10台のタブレット端末 (ipad Air 2・無線LAN回線を必要としないセルラーモデル) を配置しました。教育研究所の10台については、「学校ICT推進研究部会」の研究員を中心に実際の授業で活用し、今後のICT活用の推進に資する実践例を蓄積したいと考えています。また、ICT活用に熱意のある先生方を募りたいというアイデアが進行中です。校長会を通じて情報提供していきたいと考えています。

40台配置 上小学校

今年度、上小学校ではICT活用を学校研究のテーマとして、学校全体での組織的な実践研究に取り組んでいます。具体的には、タブレット端末を用いてドリル学習 (eライブラリアドバンス) を行ったり、授業支援のアプリケーション (ロイロノート・スクール) を、自らの考えや思いを伝え、学び合うための補助ツールとして活用したりしています。



修学旅行でタブレット端末を使う上小学校の子どもたち

A型水瓶座の
市川潤一です。
オーケストラ部でした。



研究所アラカルト
 ちょっとだけ紹介

●教育研究資料室ご利用ください

すでにご存知のことと思いますが、教育委員会は市役所西庁舎のさらに道路を挟んだ西側の新しい教育庁舎に引っ越しました。

その2階、教育研究所隣には研究資料室があります。秦野の教育にまつわる年代物の古書からこれまでの紀要、刊行物、研究部会の結晶が保管・展示してあります。借りることもできますので、みなさんもぜひお立ち寄りください。お目当てのものがあるかもしれません。



●教科学習支援員 &

理科支援員

秦野市は、毎年東海大学と提携を結び、多くの大学生が学校現場で児童・生徒や教員の支援をしています。今年度の教科学習支援員さんは全部で67名、理科支援員さんは8名です。それぞれ学校の実情に合わせて、また学業の妨げとならない程度にボランティアとして活動しています。どの学生さんも、将来教職の道を歩むべく様々な経験を積んでいるところです。子どもたちにとって、若さは最大の武器。もし、支援員さんを見かけたらどんだん声をかけて協力してもらってくださいね。

平成28年度秦野市教科学習支援員募集

4月18日(火) 17:00 14号館203教室

講演会
 4月18日(火) 17:00 14号館203教室

◎講演会
 ◎講演会
 ◎講演会

●環境教育研修講座

夏休みも終わりに近い8月25日(木)に、教育庁舎3階の大会議室にて、「環境教育研修講座」が開かれました。講師は東海大学教養学部人間環境学科の岩本泰氏です。岩本先生のゼミの学生が理科支援員として、活躍しています。

「エコキッズ」に関わる教員対象の研修でしたが、多くの方に受けていただきたい貴重な講義でした。1枚のTシャツは、どれくらいの綿花が使われており、どれくらいの畑で栽培されているのか。安価なものほど、綿花畑で酷使されている子どもたちにつながります。日常の一コマから環境について深く学ぶのも大切なのだと再認識しました。

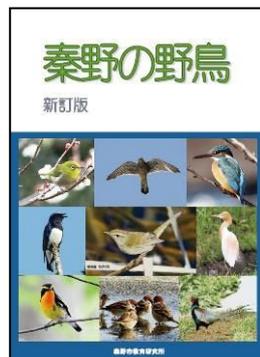


アクティブ・ラーニングを体験

●「新訂版 秦野の野鳥」

問い合わせ殺到

この春から販売されている「新訂版 秦野の野鳥」。タウンニュース掲載された途端に問い合わせが殺到し、ゴールデンウィークの職員不在の研究所では、電話がひっきりなしに鳴っていたとか。そんな「秦野の野鳥」ですが、現在もご好評をいただいております。これほどの反響があるとは嬉しい悲鳴です。まだ手にとっていないそのあなたも、この本を片手に身近な野鳥から癒してもらおうのはいかがでしょうか。問い合わせは教育研究所まで。





平成28年度 研究部会を紹介します！！

学校ICT推進研究部会

2年目になります。秦野式タブレット有効活用を研究中です。



吉田 正也 教頭 (渋沢小) 松永 雅史 教諭 (末広小)
田代 春菜 教諭 (南小) 平井 泰輔 教諭 (大根中)
山口 航 教諭 (南中) 小坂 洋 教諭 (鶴巻中)

今年度は、今後の秦野市における授業でのICT活用の推進を見据え、タブレット端末の有効活用について研究を進め、研究紀要にまとめたいと考えています。

幼小中一貫体力向上研究部会

1年目です。北村先生の研究をさらに発展させたいです。



遠藤 桂 総括教諭 (渋沢中) 村上 誠二 教諭 (鶴巻小)
北村 亜弥 副園長 (しぶさわこども園)
高島 圭太郎 教諭 (大根小) 須藤 敏哉 教諭 (本町中)

研究部会では、全国体力運動能力調査において明らかになった課題の解決に取り組んでいます。幼小中で楽しく取り組めるサーキットトレーニングを考案中です。完成したら一人でも多くの先生に活用してもらいたいです。

幼小中一貫教育広報研究部会

1年間の部会です。幼小中一貫教育についてのリーフレットを作成します。



花田 伸和 教頭 (北小) 平井 健一 総括教諭 (西小)
高木 真紀 教諭 (みなみがおか幼稚園)
倉持 有里子 教諭 (東中) 中畑 伸浩 教諭 (鶴巻中)

秦野市で行っている幼小中一貫教育について、保護者や地域の方々に広めていきましょう。アンケートを実施し、その結果を含めたり、各中学校区で行っていることも取り入れていこうと思います。